



はじめに

人と自然の博物館（ひとはく）は、2022年で開館から30周年を迎えました。10月には、ひとはくの活動を支えてくださる関係者の皆様方と共に、新しい門出を祝う記念式典を開催しました。もうひとつの重要なニュースは、新収蔵庫棟「コレクションナリウム」のオープンです。「まちに開かれた収蔵庫」をコンセプトとするコレクションナリウムは、ひとはくの資料に気軽に触れられる場であると同時に、ひとはく周辺のまちづくりの核ともなる新しい博物館施設です。

博物館活動としては、調査・研究、資料収集、展示、セミナー、アウトリーチ、シンクタンク、ジーンバンク、データバンクなどの活動を精力的に進めてまいりました。

展示では、県内産の2大恐竜をはじめ、恐竜の歯や卵殻等に注目して、その特徴に迫った「ひょうごの恐竜展～タンバティタニスとヤマトサウルス～」を開催しました。その他ミニ企画展として、兵庫県庁 SDGs WEEK 関連事業である「生物多様性と共生する『みどり』のデザイン～地域性種苗を用いた緑化のススメ～」、外来生物の早期発見と効果的な防除に向けた「干潟に侵入する脅威の外来植物ヒガタアシ」を開催しました。

研究員や連携活動グループ等による事前申込制の専門的な「一般セミナー」を154回開催したほか、来館団体向けの「特注セミナー」を233回、来館者が当日に予約なしで参加できる「オープンセミナー」を931回開催しました。また、収蔵資料をテーマ毎に蔵出しする収蔵資料スペシャル企画「標本のミカタ～コレクションから新しい発見を生み出す～」を全4回開催するなど、普段公開していない標本・資料の積極的な活用を図りました。本年度で第18回を迎えた市民研究発表会「共生のひろば」は、博物館とWeb上で開催しました。

新型コロナウイルス感染症がもたらしたグローバル社会の混乱は、多くの教訓と新たな人間活動の枠組みと共に、新たなフェーズに移りつつあります。こうした中、当館の運営を様々な面で支えてくださいました皆様に心からお礼申し上げますとともに、引き続き温かいご支援をたまわりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

兵庫県立人と自然の博物館
館長 中瀬 勲